



和の美学は、直線とモノトーンが基本。

「生け花の心得は無いですが、まず“粹とは何だろう”と考えました」。そう語るのは設計会社社長のMさん。見えてきたヒントは“直線を生かすこと”だった。「いろいろな考え方があると思うんですが、僕は和の美学とは直線だと感じたんです。曲線は洋風な印象になります。しかも建物が純和風の平屋ではないので、なおさらビッシュとした直線をベースとする庭を合わせることで和モダンな邸宅にまとまる」と想像しました。庭全体の色合いは天然石のアースクオーツ(クラストブラック)を主役に玉砂利を組み合わせて、花や緑が映えるモノトーンの世界を提案した。そしてスケッチを重ねるうちに、もうひとつのアイデアが浮かんだ。



アースクオーツ乱形

豊富な色幅と形が魅力な天然石。さび、シダ横様、鉛灰スジ、歳月(とき)による表情の味わいをお楽しみください。

“ずらす”ことで侘び寂びを表現する。

もうひとつのアイデアとは“ずらす”こと。「直線を基本にしつつ表情を出したい。そこで天然石の小径を途中で切ってずらす、また途中で切ってずらす。すると全体に変化が出ます」。粹とは一辯倒過ぎないある種の“はずし”でもあるから的に射たアイデアだ。“ずらす”美学は植栽にも反映された。「四季の草木を配置する際、代表的過ぎるものは避けて少しづらす選び方で先生とお話をしました。春なら桜ではなくハナモモ、夏はヒマワリよりハイビスカスとか。ただし秋だけは圧倒的に鮮やかなもみじを選びました」。ちなみにハイビスカスは1日で花が枯れることから一日花とも呼ばれる。一期一会を大切にしたいとの先生の想いからだ。



「小粹で素敵な庭を 生けていただきました」

華道の師範をしております。もう50年になるでしょうか。

一昨年にちょうどいい土地が見つかりまして、

広く暮らしたかったものですから大きめの平屋の家を

新築いたしました。長い縁側を作ってもらって、そこから毎日好きな花や木を愛でることができたら幸せだろうと。

悩んだのがその眺める庭で、草花のことはわかりますが

建築や庭づくりのことは私、もちろんわかりません。

ほしかったのは「草や木、花々を、華道のように生ける庭」。

そのイメージだけはありましたので設計の方にお伝えました。

完成してとりわけ気に入ったのは天然石でしつらえた

小径のようなデザインですね。晴れの日も、雨に濡れても

とても絵になります。城下町のような小粹で素敵な風景です。

草木は四季を巡るように植えました。ハナモモ、ハイビスカス、

桜桃、もみじ、椿とか。それらを見てまわる時も大変歩きやすい。

「暮らす作品」というと大げさかもしれません

美しい庭を生けてくださいって、ありがとうございました。